

厚生科学研究費補助金（こども家庭総合研究）

分担研究報告書

本邦全妊産褥婦に行う 施設型「母子保健プログラム」の策定

北村俊則，金沢浩二，木下勝之，工藤尚文，
佐藤昌司，豊田長康，岡野禎治，吉田敬子，

中野仁雄

研究協力者

（岡山大学）多田克彦，高馬章江，松村恵，山本桂子，内田久恵，伏本恵子，
沢村陽子

（埼玉医科大学）小林浩一，黒牧謙一，林正敏，松本幸子，谷島春江，白石路子，
下館俊枝，神田千恵，影山直子，船生真紀，白井真由美

（九州大学）有吉秋代，竹葉恭子，山下春江，今村菜摘，吉谷薫，野口ゆかり，
森澤養子，光武博子

（三重大学）門脇文字子，吉沢いよ子，渡辺由紀，白木澄代，福島千恵子，行方
かおり，長谷川雅美，長田成巨，小瀬古隆

（琉球大学）本村幸枝，大城順子，比嘉国江，小波蔵真琴，中村幸乃

研究要旨

産後うつ病はその発生率が高く，母親の社会的不適応，婚姻関係の崩壊，母子相互作用の障害，乳幼児の情緒障害，知的発達への障害などに関連すると言われている．そこで，周産期のメンタルヘルスの維持，増進と親子関係の健全な育成のために，周産期うつ病の早期発見・介入・治療のための包括的精神保健対策が必要である．日本版プログラムを策定するには現有施設と総合的医療チーム（産婦人科，小児科，精神科）による医療サービス体制が必要である．本研究では全国5大学の参加施設において，まず周産期うつ病早期発見のプログラムを作り，その実行可能性あることを検証した。

見出し語

妊娠、分娩、精神症状、エモーショナルサポート

A . 目的

多施設共同研究により(1)初産婦における産後うつ病の罹患率を求め(2)その危険要因を確認する。加えて(3)産後うつ病すクリーニング尺度であるEPDS (Cox ら, 1987) 日本語版の妥当性を確認する。

B . 研究方法

埼玉医科大学, 三重大学, 岡山大学医学部, 九州大学医学部, 琉球大学の5施設の産婦人科教室が参加した。対象とした女性は, (a) 初産婦(妊娠歴は問わない) (b) エントリー時点で妊娠8か月である者 (c) 当該施設で出産予定である者 (d) 調査への同意が得られた者とした。300例を目標数とした。

面接者は主として助産婦が行った。面接は、妊娠後期(9か月目)、産後1か月目、産後3か月目、産後12か月目に実施する。この調査期間を通じて同一の妊産褥婦には1名の面接者が専任となって面接にあたる。産後面接者は精神疾患の診断並びに今回使用する構造化面接の使用法について事前の訓練を受けた。訓練は(1)通信教育と(2)スクーリングから構成される。通信教育では、診断練習用診断要旨集を各面接者に送付し、これに回答することで DSM-IV (American Psychiatric Association, 1994) の診断技術を向上させた。

C . 結果

調査は現在進行中であり, 各施設ごとのエントリー数などは次の通りである。

施設	エントリー	3ヶ月面接終了数
埼玉医科大学	69	1
三重大学	面接訓練中	-
岡山大学	38	17
九州大学	56	38
琉球大学	面接訓練中	-

D . 考察と結論

今回の報告は, 進行状況の報告であるが, 日本における周産期の精神疾患の発現に関する前方視的多施設コホート調査としては画期的なであり, 日本の助産婦が精神科診断を行えることも示された。

文 献

- American Psychiatric Association (1994).
Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (4th ed.). American Psychiatric Association: Washington D.C.
- Cox, J. L., Holden, J. M., & Sagovsky, R. (1987). Detection of postnatal depression: development of the 10-item Edinburgh Postnatal Depression scale. *British Journal of Psychiatry*, 150, 782-786.